

気管切開チューブの誤接続に関する死亡事故が発生しました。

～気管切開用スピーチバルブ(ボタン)の誤接続～

★ 平成19年10月から気管切開の誤接続に関する事故の報道が2件続きました**発声用ではない気管切開チューブ**に本来接続してはならない**気管切開用スピーチバルブ(ボタン)**を取り付けたため窒息により患者が死亡した事故です。

具体的事例

【事例1】気管切開チューブに人工鼻を取り付けるべきところ気管切開用スピーチバルブを取り付け患者が死亡した

【事例2】発声用ではない気管切開チューブ用内筒(内筒に横穴がない)を使用中に気管切開用スピーチバルブを取り付け患者が死亡した。

【参考】<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/2007/20071226.pdf> 日本看護協会HP

<報道内容から以下の背景が読み取れます>

- ① 発声用の気管切開チューブも発声用ではない気管切開チューブもコネクタが外径15mmの製品を使用していたため接続してはならない『発声用ではない気管切開チューブ』と『気管切開用スピーチバルブ』の誤接続が可能であった(呼吸回路に接続するためのコネクタはISO規格で外径15mmに統一されています)
- ② 複数メーカーの製品を混在して接続し使用していた。



1月23日付で、厚生労働省医政局および長崎県福祉保健部より、気管切開チューブに装着する器具に関する取り扱いについて通知がありましたので、ご周知いただきますようお願い致します。

(概要)

「気管切開チューブの誤接続により気管閉塞の状態となり、患者が呼吸困難のため死亡に至った事例が発生している。そこで、製造販売業者に当該製品の構造的な改良を行うことなどの速やかな対応を実施するよう指示しているが、改良が実施されるまでの間、誤った使用のないよう特に注意されたい。」

各施設で使用している気管カニューレの使用目的や構造を理解し、スピーキングチューブを使用時の発声練習時にはバルブ装着時の確認や装着後の患者観察を十分に行い正しく使用しましょう。